

(様式⑦) 小学校・中学校)

確かな学びと豊かな心・健やかな体をはぐくむ 学校力向上プラン【学校評価計画書】

中学校区におけるめざす子ども像 人から信頼され、何事も徹底してやりぬくたくましい子	堺市立 校長	福泉小学校 鶴田 敦
--	-----------	---------------

令和7年度 重点目標 ○学力の向上、豊かな心の育成、丈夫で健康な体力づくりを行い、児童の自己肯定感と自己有用感を高める。 ○一人ひとりの子どもの学習を保障する教育を実現することにより、授業力や生徒指導力を向上させる。 ①学力の向上（基礎学力向上・教科学力向上） ②豊かな心の育成（「いじめ」や「差別のない」集団づくり） ③健やかな体の育成（体力の向上と健康的な生活習慣） ④基礎的環境整備
--

確かな学びの現状 昨年度、「学びのコンパス」を加味した授業スタイルの構築を図った。堺市学調（IRT調査）平均正答率結果、4年生（平均53.5％）5年生（平均52.2％）6年生（平均48.0％）という結果だった。全国学力テスト（6年生）の結果は堺市平均を下回ったが、5年時に比べ向上が見られた。また、学校アンケート「授業が分かりやすく、勉強ができるようになった」と肯定的に答えた児童は89.1％である。基礎・基本の徹底を図るとともに、今年度から始まる「堺市学びのコンパス」を加味した授業の確立をめざす。	豊かな心・健やかな体の現状 昨年度の学校評価アンケートで、86.3％の児童が「学校へ行くのが楽しい」と肯定的に答えた。『命を大切にすることや、「いじめ」をしてはいけないことを教えてもらっている』と答えた児童は、94.1％であった。 また、「体育の授業で体を動かすことは楽しい」が89.4％、「体育の時間で運動が上手になった」が86.2％の児童が肯定的に答えた。
---	--

	中項目	具体目標	具体的な取組 (●重点とする取組 ★中学校区での取組)	判断基準 (評価のものさし)	評価方法	評価時期	進捗確認 (2学期途中)		達成状況(年度末)			
									自己評価		学校関係者評価	
確かな学び	基礎学力向上	1. 読解力の向上のために、「書く」活動をあらゆる教育活動に位置づけ、「書く」への抵抗をなくすとともに、基礎基本の徹底を行う。	●読解力の向上のために、「書くこと」やICT等を活用した「他者との交流」を大切にしたり、問題解決型学習の研究を進め、基礎基本を定着させるとともに、学習の過程がわかるノートづくりによる思考力の育成を図る。	研修教科「国語」において、初発の感想、学習の道筋を順序だてて考え、読解力の向上を図るため、問題解決型学習の実施をし、自分の考え方を「書くこと」を80%以上取り入れる。また、自力解決から交流活動へ展開する過程を80%取り入れる。 これらをその他の教科でも80%以上取り入れる。	・ノート、ワークシート ・学校評価アンケート ・到達度テスト	毎学期						
		2. 朝の学習(漢字・語彙の習得)や本読み活動において、基礎的な「話す・聞く力」、「読む・書く力」をつけ、児童の自己肯定感を高める。	○朝読で担任による読み聞かせ活動を行うとともに、副教材等を用いて、発達段階に応じて、「漢字学習における語彙力の強化」と「視写(聴写)」を継続的に授業や朝の学習で取り組む。	・朝の読み聞かせをすることで、本に親しみを持つ子が増え、児童アンケート「読書は好きですか」の達成率70%以上。 ・漢字学習における語彙力の向上。達成率80%以上 ・一定時間(10分)内に視写できる力を高める。80%以上。 ・視写(聴写)を通して、書くことに抵抗感をなくし、達成率80%以上	・CBTアンケート ・各学年取り組みの交流 ・10分間スピードチェック ・漢字、言葉の小テスト・大テスト	毎学期						
	教科学力向上	3. 教科書の活用(利用)をテーマに授業改善を行い、ICTを効果的に用いることで、教科学力を向上させ、児童の自己肯定感を高める。	○教科書を使った「わかる・できる授業」で、児童に知識・技能を習得させ、教師が教科書の内容(知識・技能・考え方等)を理解し、教科書を活用して授業を行う。「学びのコンパス」を加味した授業スタイルの構築をめざす。その際、ツールとして、一人一台のタブレット活用を効果的に行う。	・4～6年は、学力テスト・思考力テストの正答率を75%以上にする。 ・1～3年は到達度テストの結果で、知識技能の定着率90%以上にする。 ・児童・保護者アンケート「授業はわかりやすく、勉強ができるようになった」との肯定的回答のアップに取り組む。 (昨年度平均 87.3%)	・学力テスト・思考力テスト ・到達度テスト ・学校評価(保護者・児童)アンケート	毎学期						
	授業のUD化	4. 「授業のユニバーサルデザイン化」を推進し、学習活動に生じる困難さに応じた指導上の工夫を行う。	○ 明確な発問・指示をする。ICT活用による視覚支援。課題をスモールステップ化し、集中しやすい環境を整備する。常に肯定的にほめる(評価する)等、子どもたちが「わかる・できる授業」の展開をめざす。	・児童アンケート「授業はわかりやすく、勉強ができるようになっていく」の項目の肯定的回答のアップに取り組む。(昨年度 89.1%)	・学校評価アンケート	毎学期						
	家庭学習	5. 家庭学習習慣を確立する。	○ チャレンジノート等を用いて、自ら進んで学習を行う自主学習への取り組みを推奨する。	・児童アンケート「チャレンジノートに進んで取り組んでいる」の項目の肯定的回答のアップをめざす。(昨年度93.9%) ・保護者アンケート「子どもは、家で自主学習等の家庭学習をしている」の項目の肯定的回答のアップをめざす。(昨年度55.9%)	・学校評価アンケート	毎学期						
豊かな心・健やかな体	心の教育	6. 教育活動全体を通した人権教育の推進とともに教科化された道徳について実践を積み上げることで、他者理解に努め、自分を大切にすることの育成を図る。	●特別の教科「道徳」や人権教育の授業を中心に「いじめ」や「差別」は、絶対に許されないことと位置づけ、自分も他者も大切にすること人権教育を推進する。道徳の時間においては、道徳的価値を心にしっかりと受け止めることで、よりよい生き方を考え、人間関係力の向上に努める。また、評価においては、「子どもを励まし、勇気づける評価」を行う。	・子ども間のトラブル等について質的・量的ともに前年度に比べて良化をめざす。 ・保護者アンケート「学校は生命を大切にすることや、社会のルールを守る態度を育てている」の肯定的回答のアップをめざす。(昨年度 86.3%)	・道徳ノート・ワークシート ・各学年の取り組みの報告 ・学校評価アンケート	毎学期						
		7. 「させる生徒指導」から「支える生徒指導」の質的変換をするとともに、「学習指導に内在化した生徒指導」の構築をめざす。	○自ら進んで挨拶すること、児童同士でも丁寧な言葉使いができるようにすることで人間関係力の向上を図る。 ○★縦割り活動やクラス活動などで児童同士のコミュニケーション力の向上を図り、人の役に立つ活動を通して自己肯定感・自己有用感を高める。	・人間関係力の視点より、児童アンケート「学校が楽しい」の項目の肯定的回答のアップをめざす。(昨年度86.9%) ・児童アンケート「私は自分からあいさつができていく」、保護者アンケート「子どもはあいさつができていく」の肯定的回答のアップをめざす。(昨年度82.0%)	・学校評価アンケート ・各学年交流活動等の取り組み報告	毎学期						
	いじめ防止	8. 「いじめ」の未然防止・早期発見・早期対応・早期解決を図る。	★ 予防的効果がある「いじめ」アンケートを実施とスマイルチェックアンケートや日常的な観察によって早期発見に努め、組織的に早期解決を図る。	・児童アンケート「命を大切にすることや、『いじめ』をしてはいけないことを教えてもらっている」の項目の肯定的回答のアップをめざす。(昨年度94.5%) ・保護者アンケート「学校はいじめのない学級づくりに取り組んでいる」の肯定的回答のアップをめざす。(昨年度83.3%)	・学校評価アンケート ・いじめ対策委員会での報告	毎学期						
	体力向上	9. 運動量と安全性を確保し、一定水準以上の体力・運動能力を保障する。体育授業で成功体験を積ませることで、運動嫌いの児童を減らし、二極化を解消する。健康教育(保健指導・食育)を適時行い、健康の保持・増進を図る。	○ラダートレーニング・縄跳びを通した取組を年間を通じて行い、子どもの体力向上をめざす。 ○「小学校体育指導の手引」等を積極的に活用し、教材研究に取り組み、「意欲」「思考」「技能」を習得させる。 ○ 昨年度の課題を分析し「体づくり運動」の内容を考え、体育の授業等で継続的に取り組むことで体力向上を図る。 ○保健の授業や栄養指導等において、児童が主体的に健康の保持・増進を図ろうとする態度を身につける。	・児童アンケート「体育の授業で体を動かすことは楽しい」「体育の時間で運動が上手になった」の肯定的回答のアップに取り組む。(昨年度「楽しい」89.0%、「上手になった」87.0%) ・昨年度の新体力テスト結果より、「脚力強化」「握力強化」に重点をおいて指導する。それらの改善が図れたかを検証する。 ・学校医による健康診断結果や定期的な残食調査のデータをもとに、児童の生活習慣について検証・改善をする。	・学習カード ・学校評価アンケート ・スポーツテストの結果 ・学校保健委員会	毎学期						
教育環境整備	静謐への学習環境	10. 安全で安心できる学習環境に整備することで、落ち着きと学習に関する静謐さを保てるようにする。	●教室環境や授業の基礎的環境整備を徹底することで、安全で安心できる学習環境を保てるようにし、子どもの落ち着きを確保するとともに、誰もがわかりやすい授業を行う。 ○授業中や行事、休憩時間、登下校中の安全確保に努める。 ○安全教育・防災教育の充実化	・保護者アンケート「子ども一人ひとりが大切にされる安心、安全な場所になっている」の肯定的回答のアップに取り組む。(昨年度 84.1%) ・各教員が教室の整備状況や登下校指導、休み時間の過ごし方等のチェックを行い達成率の向上に努める。	・学校評価アンケート ・毎月の安全チェックによる施設環境整備	毎学期						

校長より（年度末）	学校関係者評価者から（年度末）
-----------	-----------------